

カミガモシダの植生

坪谷 富男

海岸近くで隆起した火成岩からなる頭山の裾（海拔50m地点）には、杉林に加えて、ケヤキ、タブノキ、ホオノキ、オニグルミ等の林に囲まれた急傾斜の岸壁があり、コケむして湿気を保っている。森林内部は空気がよどみ適応性のある植物も数多い。中でもツルアジサイは四方につるを伸ばし、岩肌を這い廻り、急斜面でも旺盛な生育をし、幅広い葉は、尚岩場の湿気を保つのに役立っている。その中に特にシダ類の種類が豊富である。

カミガモシダは、新潟県では、この頭山だけの分布として知られているものであるが、クモノスシダやツルデンダ同様の生態を持ち、葉の先端は繁殖器官となっていて、地表に接した葉先からは幼苗が出来る。

手付かずの植生を観察出来る頭山は、心休まる環境である。

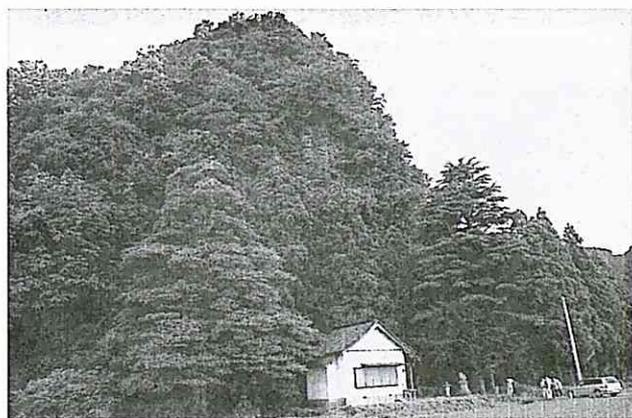


写真1 糸魚川市頭山 全景 (2007. 7. 1 撮影)



写真1 カミガモシダ (2007. 8. 9 撮影)

カミガモシダの植生

2 × 2m、植被度 80%、斜度 70°

シケチシダ 1・2	}	25 ~ 30cm
トウゴクシダ 1・2		
オオフジシダ +・2		
ツルアジサイ 3・3		
ヒサカキ +・2		
ジュウモンジシダ +	}	20 ~ 10cm
カミガモシダ +・2		
リョウメンシダ +		
ナライシダ +		
ヌリワラビ +		
ショウジョウバカマ +・2		
ミヤマフユイチゴ +		
キジノオシダ +		

